

郷土への愛着は情報から！PDF・Wikipedia！みんなでつくるオープンデータ

応募チーム名：Code for SUSONO(仮称) 自治体：静岡県裾野市

(特徴) このプロジェクトの特徴は、COG の取り組みの本質をしっかりと理解して取り組んでいる好例の一つである。つまり、地域課題の本質にまず迫り、それが地域に対する肯定的な認知不足に原因があるとたどり着き、このため、裾野に関する時間軸（歴史）の情報をウェブ上に載せて、誰でも容易にその情報を



を知ることができるようにすることに取り組んだ。具体的には、①創刊（昭和31年）から平成29年まで（1352号分）の市の広報誌のPDF化を進め、②それをオープンデータとして公開し、③それをもとにWikipedia Townを開催し、Wikipedia記事として佐野原神社、裾野市中央公園などを完成させている。今後さらに市役所としては、Code for

SUSONO（仮）を含めた市民とともに、データ・デジタル・デザイン（3つのD）を利活用して、市民にとっての真の課題解決に取り組むとしている。

(アドバイス)

1. Wikipedia Town 情報の活用の開拓

地域の各種の資源をWikipediaに記事として掲載していくことは、Wikipedia Townと呼ばれて日本でも各地でその動きがあります。今回の裾野市のCode for SUSONOによる取り組みもその一環となります。そこでこれからですが、せっかくこうして作り上げたWikipedia Town情報を実際に使っていただく利用者を広げる活動も展開していただけたらと思います。例えば、「小中学校の授業（社会教育やICT教育）」での活用や、「ウォーキング（まち歩き）マップ」との組み合わせによる観光情報源としての活用、「図書館での活用」による裾野を知るコーナーでの活用などです。これらは一例であり、またそれぞれに具体的にどう取り組んでいけばよいかについて、さらに関心のある市民の参加が促せるのではと思います。

2. Wikipedia Town 情報の作り手の拡大

今後さらに裾野Wikipedia Townが充実するには、Wikipedia Town情報の作り手の拡大も必要だと思います。このため、例えば、裾野市内各地域のWikipedia Town情報祭りといったイベントを開催して、そのイベントを目指して、地域の市民がWikipedia Town作りに励むといったことはいかがでしょうか。ここには、地域の情報に詳しい図書館の司書や地域のIT好きの高齢者や中高生も参加する、年一度のイベントに成長させていくといったことも検討されては如何でしょうか。

3. 市役所への期待

データ利活用推進本部を設置した裾野市としては、可能であれば、市のウェブサイトにも、市民発のWikipedia Townを作り、そこに成果を載せていくことも考えていただければと思います。掲載内容の責任はWikipedia Townとなります。将来、市民によるオープンデータ利活用の好例が出ればその掲載も期待いたします。さらにCOG一般との関連でいえば、今回の経験を踏まえて、ほかの地域課題にも市民と共にプラットフォームとして取り組む、その際地域課題は今回のように市民自身で深堀していただくというのは大変良い進め方だと思っております。